

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2026年 2月 3日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 高等研究院 物質-細胞統合システム拠点
職 名・学 年 特定助教
氏 名 吉村 柁彦

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	Pacifichem2025		
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(
発 表 題 目	1. Remote Silyl Groups Enable Hydrolytically Stable and Efficient Photocleavable Coumarins for Chemical Biology 2. Total Syntheses of Non-canonical Strigolactones 3. Controlling Molecular Interactions in Confined Nanospace: From Fundamental Understanding to Glue Discovery		
開 催 場 所	アメリカ・ハワイ 国際会議場		
渡 航 期 間	2025年 12月 15日 ～ 2025年 12月 22日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	139,380
		宿泊費	200,000
		滞在費	49,000
		学会参加費	115397
その他			
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 昨今の物価高騰と円安の影響により、若手研究者が自らの研究費で海外開催の国際会議に参加し、発表・議論する機会は狭まりつつあると感じています。今回、京都大学教育研究振興財団の国際研究集会発表助成に採択いただいたことで、国際会議へ積極的に参加する後押しとなりました。会期中は多くの研究者と議論を深め、今後の共同研究につながり得る新たなネットワークを構築することができました。今後も若手研究者が国際的な研究交流に継続的に挑戦できるよう、本助成の充実をご検討いただけますと幸いです。		

成果報告書 / 吉村 柁彦

1. 学会概要

会議名： The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025

開催期間： 2025 年 12 月 15 日 ～ 2025 年 12 月 20 日

開催場所： アメリカ, ハワイ, ホノルル, 国際会議場

発表題目：

1. Remote Silyl Groups Enable Hydrolytically Stable and Efficient Photocleavable Coumarins for Chemical Biology
2. Total Syntheses of Non-canonical Strigolactones
3. Controlling Molecular Interactions in Confined Nanospace: From Fundamental Understanding to Glue Discovery
- 4.

2. 学会参加の目的

本学会は化学分野における世界最大級の国際会議であり、最新の研究動向の把握、および自身の研究成果である「光分解技術」「植物天然物全合成」「核酸ナノ構造体技術」に関する口頭発表と研究討論を主目的として参加した。さらに、研究の発展に資する海外研究者とのネットワーク形成ならびに共同研究可能性の探索も目的とした。

3. 研究発表の概要と成果

口頭発表では、既報の「光分解技術」「植物天然物全合成」に加え、論文未発表の「核酸ナノ構造体技術」についても報告した。未発表内容については発表後に多くの研究者から具体的なコメントをいただき、今後の論文化に向けて有益な研究交流となった。

4. 学会全体を通じた所感と今後の展望

今回の学会では、内容の異なる 3 つの研究セッションにおいて、3 件の口頭発表を行った。1 つの学会で多様な研究トピックの研究者と議論できる機会は、世界最大級の化学分野国際会議ならではの、会期を通じて幅広い研究者と交流を深めることができた。また、いずれのセッションにおいても、自身の研究が独自の視点に基づいて展開できていることを再確認した。今後も複数の研究課題を独自の切り口で推進し、国際的な研究交流を通じて発展させていきたい。

5. 謝辞

末筆ながら、本学会参加に際し、渡航助成を賜りました京都大学教育研究振興財団ならびに関係者各位に深く感謝申し上げます。